

## 稲の「萬歳」

大嘗祭（だいじょうさい）は、天皇即位の際、大嘗宮の悠紀殿（ゆきでん）、主基殿（すきでん）に初めて新穀を供え、国家・国民のためにその安寧と五穀豊穡などを感謝し祈念する儀式で、大正天皇の大嘗祭では、悠紀の地は愛知県、主基の地は香川県が選ばれた。そして、県内候補地から碧海郡六ツ美村（現岡崎市中島町）の水田が悠紀齋田として選ばれ、悠紀齋田で作られた米「萬歳」が、1915（大正4）年11月の大嘗祭に献納された。現在も、これを記念する「六ツ美悠紀齋田お田植えまつり」が、毎年6月に開催されており、岡崎市の無形民俗文化財に指定されている。「萬歳」は島根県農事試験場で育成した早生種で、もともとは「郡益」という名前であったが、悠紀齋田を記念するため「萬歳」に改称された。

「萬歳」は、その後、栽培が途絶えてしまったが、県農業総合試験場に種もみが保管されていることを知った地元の農家が、2008（平成20）年に種もみ10gを譲り受け、試験的な栽培を行った。さらに、2013（平成25）年に、六ツ美悠紀齋田保存会が、再度、県農業総合試験場から種もみを入手して本格的な復刻に取り組み、2014（平成26）年には玄米2,400kgを収穫した。

岡崎市の六ツ美地域で、明るく住みよい街づくりを理念とする有志の会「悠紀の里じゃんだら会」が、10年以上前から悠紀齋田や「萬歳」を活用した地域活性化に取り組んでおり、その一つとして「萬歳」を使用した清酒製造を丸石醸造株式会社（岡崎市：以下、「丸石醸造」）に依頼した。丸石醸造では、これを受け、2013（平成25）年にその技術支援をあいち産業科学技術総合センター食品工業技術センター（名古屋市西区：以下、「センター」）に要請し、センターが酒米分析等の技術的なサポートを行った。「萬歳」は、元来、ごはんとして食べる“食用米”の品種で、清酒製造に適するか不明なため、酒米分析を行った結果、酒造りに使用する他の原料米「大地の風」、「雄町」と比較したところ、「萬歳」は、清酒製造に適した“酒造米”の「雄町」に劣らない優れた特性を有することがわかった。丸石醸造とセンターは、復刻された稲品種「萬歳」を使用した清酒の開発に取り組み、フルーティな香りとなめらかな味わいが特長の純米大吟醸「萬歳」を完成させた。

- ・悠紀齋田記念の中島案内の「名物賣店」の項には「萬歳」を使用した色々な商品が見られる。

上 萬歳酒 萬歳羊羹 中島案内賣捌 早川芳太郎

本 萬歳飴本舗 砂糖 東海屋 加藤

上 萬歳おこし 三徳支店

上 萬歳落雁 金花堂

停 繪はがき 松村こと 停車場店 すず

停 新見兼松

中島案内發賣元 盛多屋 牧つね

- ・悠紀齋田記念の中島案内の「悠紀齋田の田植唄」の項には以下のような唄が披露されている。

今日の良い日の御田植はじめ稲の萬歳御代の數

やがて世界のむつみの種も悠紀の御田より出るやうに

菅の小笠にそろひの着もの苗もそろへば氣も揃ふ

三河萬歳萬歳稲の穂に穂出るよに祈らむしよ

早苗うゑましよ眞すぐに植ゑうすぐは神様およろこび



大正時代の農家



復刻版  
萬歳の  
稲刈り



清酒萬歳ラベル



清酒萬歳

本項は以下の資料を引用している。

**[六ツ美村誌]**

編者： 六ツ美村是調査会  
発行： 六ツ美村是調査会  
発行日：1926（大正 15）年 12 月 1 日  
発行所：日新堂書店  
印刷所：活版印刷所

**[悠紀齋田中島案内]**

編集人：牧 善丸、早川 治三郎  
発行人：牧 善丸  
印刷者：中村 角馬  
発行日：1915（大正 4）年 6 月 5 日  
発売元：牧 つね、早川 芳太郎

**[大嘗祭 悠紀齋田]**

筆者： 野々山 克彦  
監修： 野村 弘、都築 末二、山崎 鉦司、越山 義之  
発行日：2014（平成 26）年 4 月 1 日  
印刷所：永田印刷所

**[大嘗祭 六ツ美悠紀齋田 100 周年記念事業記念誌]**

編集・発行：六ツ美悠紀齋田 100 周年記念事業実行委員会記念誌編集委員  
発行日： 2016（平成 28）年 2 月 25 日  
印刷所： 大日印刷株式会社